

研究協力のお願ひ

1. 研究課題名
双極性感情障害患者の後向き長期追跡研究
2. 研究の対象者
1980年4月から2007年12月までに当院精神科を初診した方のうち、45歳未満の双極性感情障害（ICD-9:296 および ICD-10:F31）と診断された方。
3. 研究目的・方法
1. 目的 双極性感情障害は世界において増加傾向にあり、1年間に1～2%程度が発症し、発症しやすい年齢は30歳程度と報告されています。日本ではその発症率は世界より低く、この差は社会文化的要因のほか、研究方法の違い、診断の困難さ、国家間による双極性障害治療レベルの差などの関与も考えられますが、未だ結論は得られていません。 一般的には、うつ病相で発症することが多く、数回のうつ病相の再発後に躁病相が出現することが多いとされています。発症時はうつ病と診断されたものの5～20%が経過中に双極性感情障害と診断変更されたとの報告もあります。また双極性感情障害の長期予後は反復性で慢性に経過しやすいとされていますが、十分検討されているとは言えないのが実情です。 そこで本研究の目的は、当院精神科初診症例における双極性感情障害の発症率の年次推移および長期予後を検討することです。なお、本研究は本学医の倫理審査委員会による承認、学長による許可を得て実施しております。
2. 方法 以下のデータを紙カルテおよび電子カルテで収集します。 (ア)初診時 年齢、性別、主病名、同胞、両親離婚歴、家族歴、周産期障害、発育の遅れ、内科疾患、不登校、教育年数、未治療期間、発症年齢、Global Assessment of Functioning（以下、GAF）スコア、社会適応度 (イ)フォローアップ時（初診1年後・5年後・10年後・20年後・30年後・終診時・中断時） GAFスコア、社会適応度、就労、デイケア・作業所通所、入院回数・入院期間、障害者手帳、障害年金
3. 研究期間 実施承認後 ～ 西暦2024年3月31日
4. 研究責任者（所属・職・氏名）
所属・職： 精神医学講座 助教 氏名： 松田 康裕
5. 問い合わせ先
本研究は、個人が特定できる情報については外部に漏洩しないよう厳重なセキュリティのもと行われます。本研究に関するご質問等がございましたら下記の連絡先までお問い合わせください。またご希望があれば、他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書および研究の方法に関する資料を閲覧することが可能です。本研究への診療情報の提供を拒否される患者さんは、ご連絡いただければ本研究への診療情報の提供は行いません。その場合は下記の連絡先までお問い合わせください。 奈良県立医科大学 精神医学講座 松田 康裕 住所：奈良県橿原市四条町840番地 電話番号：0744-22-3051（内線：3461）